

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

空手1プレミアリーグ 2023 福岡大会



優勝した組手と形の選手たち。左から大野ひかる（女子個人形）、本一将（男子個人形）、4人目が橋本大夢（組手 60kg級）、7人目が嶋田さらら（組手 61kg級）、右から2人目が澤江優月（組手 68kg超級）



空手1プレミアリーグ 2023 福岡大会

女子
61kg級

嶋田さららが逆転優勝

空手1プレミアリーグ2023福岡大会（主催：世界空手連盟（以下、WKF）が、6月9日～11日に46の国と地域から延べ296人の選手がエントリーして福岡国際センター（福岡県福岡市）で行われた。決勝が行われた11日には、約2000名の観客（関係者を含む）が世界トップレベルの技を間近で観戦。組手の部・女子61kg級の決勝で、嶋田さらら（国士舘大）がカミス（ドイツ）に4―3で逆転勝利し、初優勝に輝いた。プレミアリーグの日本開催は2019年に行われた東京大会以来4年ぶりとなった。



女子61kg級決勝Ⅱ終了のブザーが鳴り響く中、嶋田（左）が上段突きを決める

■組手

▼女子

▽61kg級

嶋田さらら（国士舘大）は、準決勝で鈴木真弥（日本空手松涛連盟）を1―0で下して決勝に進出した。

決勝の相手はドイツのカミス。嶋田は開始30秒で先制ポイントを奪われ、さらにポイントを重ねられる。

しかし残り45秒で間合いを詰めた突

きで有効を奪取。直後、両者は上段突きを決め、嶋田は2―3まで詰め寄る。残り3秒、後がない嶋田は相手の上段突きを躲（かわ）しながら渾身の中段突きを決めて同点となった。

再開の直後に終了のブザーが鳴るなか、後退（あひざり）する相手に嶋田が左の上段突きを繰り返して試合は終了した。ビデオ判定の結果、これが有効となり4―3で嶋田が逆転勝利。プレミアリーグで嬉しい初優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ嶋田さらら（国士舘大）

「信じられないくらい嬉しいです。最初、相手に取られた時、いつもの負けパターンだなと感じました。でももったいない負けをしてはいけな



◀試合終了後、亀山歩コーチとともに喜び合う嶋田



▶決勝で嶋田（左）が中段突きを決めて同点に追いつく

い。自分の得意技を出し切って終わろうと思いました。そこで切り替えて、自分の得意技を思い切って出し、決めることができました。現在教育実習の期間中で、今大会は限られた時間での練習でした。その代わりに体のメンテナンスやストレッチで補っていました。大会は少し不安もありましたが自分の感覚は狂ってなかったと思います。今後は、個人で日本一を目指したいのと、国際試合でも毎回優勝できるように頑張ります」

▽68kg超級

決勝は澤江優月（テアトルアカデミー）と齊藤綾夏（AGP）の日本人対決。澤江は2022年、齊藤は21年の全日本選手権の覇者。齊藤は22年プレミアリーグのグランドウィナー（年間チャンピオン）を獲得している。

手の内を知り尽くす両者は互いに攻撃を繰り返せず、間合いをとって機を窺う。残り30秒を切ったところで、互いに攻勢に転じた。終了間際、澤江が上段突きで有効を奪取。澤江が1-0で接戦を制し、プレミアリーグ初優勝に輝いた。



男子 60kg級決勝＝
橋本（右）が上段と中段突きでポイントを重ねる



女子 68kg超級決勝＝
澤江（右奥）が上段突きで有効を奪う

決勝は橋本大夢（佐賀県スポーツ協会）とティムラリエフ（カザフスタン）の対戦。開始直後、橋本は右の上段突きでポイントを奪い「先取」を獲得する。その後も伸びのある中段と上段でポイントを重ねて5―1とリードを広げていく。残り1分42秒、上段蹴りで一本を取られ、5―4と詰め寄られるものの、橋本はその後ポイントを重ねて、終わってみれば10―4で快勝。感涙に咽びながら、プレミアリーグの初優勝を飾った。

▼男子 60kg級

◎優勝＝澤江優月（テアトルアカデミー）
「決勝はいい試合だったとは言いきりませんが、それでも取らなきゃいけないところを取れたので、嬉しいです。『先取』を取った後、試合時間は残り少なかったですが、齊藤先輩も強い選手なので、『守ってはいけない』と思い、最後まで気を抜かずに勝負しました。これから改善していかなければならないところも見えました。今年は社会人になったので、国内だけでなく海外でもしっかりと優勝していきたいです」



女子個人形3位＝清水希容（チャタンヤラ・クーサンクー）



女子個人形優勝＝大野ひかる（パープーレン）

その他の日本選手の主な戦績は以下のとおり。

▼女子

50 kg級では、3位決定戦で堤さら（国士舘大）が敗退した。

55 kg級では、決勝で中村しおり（エス・ピー・ネットワーク）が東京五輪銀メダリストのテルリウガ（ウクライナ）と対戦し2―10で敗れて、2位に入賞した。

61 kg級では、3位決定戦で久住呂有紀（帝京中学・高校職）が鈴木眞弥との日本人対戦を5―4で制して、3位に入賞。

68 kg級では、決勝で釜つばさ（同志社大）はキリシ（スイス）に5―2で敗れ、2位に入賞した。3位決定戦で染谷香予は敗退した。

68 kg超級では、準々決勝で植草歩が敗退した。

▼男子

67 kg級では、3位決定戦で小崎友基（佐賀県スポーツ協会）が敗退。

準々決勝で中野壮一郎（イー・ギヤランティ）と中野大輝（三重県スポーツ協会）がそれぞれ敗退した。

75 kg級では、準々決勝で崎山優成（近畿大職）が敗退した。

84 kg級では、3位決定戦で江藤純哉（大分市消防局）がアブデセラム（フランス）に4―2で勝利し、3位に入賞した。

■個人形

▼女子

準決勝で、世界ランキング1位の大野ひかる（大分消防局）と東京オリンピック銀メダルの清水希容（ミキハウス）が対戦し注目を集めた。

5月のプレミアリーグ、モロッコ・ラバト大会では清水が優勝、大野は3位に入賞している。初めに清水がチャタンヤラ・クーサンクーを演武。対して大野が得意のスーパリーンペイを演武した。43・10の同点ながらも内容差で大野が競り勝った。

決勝で大野は世界ランキング2位のラウ（香港）と対戦。初めにラウがチャタンヤラ・クーサンクーを演武。続いて大野はパープーレンを演武した。指先まで行き届いた繊細でキレのある動きで前後左右に突きを繰り出し、圧巻の演武を行った。大野は45・50点でラウ（43・70点）に圧勝。地元九州で今年のプレミアリーグの初優勝を飾った。



男子個人形優勝＝本一将（ウンスー）



男子個人形2位＝菊地凌之輔（パープーレン）

◎優勝Ⅱ大野ひかる（大分市消防局）

「地元九州で、自分の持つっている力を発揮して優勝することができホッとしています。大会は清水選手との準決勝が山場でした。いつも僅差で敗れていましたが、気持ちを落ち着かせ、応援をパワーにして戦えたと思います。すぐに世界選手権の選考会があるので、今の課題に取り組んで、選考会に望んでいきたいです」

▼男子

準決勝で本一将（AGP）と西山走（大分市消防局）が対戦。ラバト大会では西山が優勝、本は3位に入賞している。初めに西山がチバナノクーサンクーを打ち、続いて本がガクを演武した。本が42・70、西山が42・00点を記録。本が西山を僅差で破って決勝に進んだ。

決勝、本の相手は菊地凌之輔（ALSOOK）。本はウンスーを演武。跳躍ではピタッと静止する見事な着地を見せ44・60点の高得点を付けた。本は菊地（パープーレン）／43・30点を退け、優勝を果たした。

◎優勝Ⅱ本一将（AGP）

「チャンスをモノにして勝つことができました。素直に嬉しいです。準

決勝で対戦した西山選手には、最近では負けていましたが、今回は勝負をかけたガクを決められて自信を取り戻せました。これから選考会や国際大会が続くので、今大会で感じた課題を一つ一つ克服し成長して、さらにいい形を打てる自分になっていきたいです」



その他の日本選手の主な戦績。

▼女子

3位決定戦で清水希容はチバナノクーサンクーを演武し、山田和花（應義塾大）を下して入賞した。同じく3位決定戦で大内美里沙（同志社大）はチバナノクーサンクーを演武し、清水那月（I&Dホールディングス）を下して入賞した。

▼男子

3位決定戦で西山はスーパーリンペイを打って、トザキ（アメリカ）を退け、3位に入賞した。



【大会結果】

◆組手	優 勝	2 位	3 位
男子 60kg級	橋本大夢 (日本)	Timraliyev Darkhan (カザフスタン)	Hari Sankar Sureeya Sankar (マレーシア) Haas Florian (ドイツ)
男子 67kg級	Almasatfa Abdel Rahman (ヨルダン)	Ghaith Afeef (ヨルダン)	Amirali Didar (カザフスタン) Xenos Dionysios (ギリシャ)
男子 75kg級	Pietromarchi Lorenzo (イタリア)	Yurur Omer Faruk (トルコ)	Mahauden Quentin (ベルギー) De Vivo Daniele (イタリア)
男子 84kg級	Aljafari Mohammad (ヨルダン)	Kvesic Ivan (クロアチア)	江藤純哉 (日本) Chobotar Valerii (ウクライナ)
男子 84kg超級	Talibov Ryzvan (ウクライナ)	Seck Sakho Babacar (スペイン)	Elmasry Ahmed (エジプト) Toltay Abylay (カザフスタン)
女子 50kg級	Salama Reem Ahmed (エジプト)	Gomez Morales Nadia (スペイン)	Zhangbyrbay Moldir (カザフスタン) Salazar Yorgelis (ベネゼイラ)
女子 55kg級	Terliuga Anzhelika (ウクライナ)	中村しおり (日本)	Schaerer Maya (スイス) Ussenova Gulmira (カザフスタン)
女子 61kg級	嶋田さらら (日本)	Khamis Reem (ドイツ)	Serogina Anita (ウクライナ) 久住呂有紀 (日本)
女子 68kg級	Quirici Elena (スイス)	釜つばさ (日本)	Alikul Laura (カザフスタン) Zaretska Iryna (アゼルバイジャン)
女子 68kg超級	澤江優月 (日本)	齊藤綾夏 (日本)	Berultseva Sofya (カザフスタン) Torres Garcia Maria (スペイン)

◆個人形	優 勝	2 位	3 位
男子	本 一将 (日本)	菊地凌之輔 (日本)	Quintero Capdevila Damian Hugo (スペイン) 西山 走 (日本)
女子	大野ひかる (日本)	Lau Mo Sheung Grace (香港)	大内美里沙 (日本) 清水希容 (日本)

日本武道館の単行本



剣道の文化誌 明治大学教授 長尾 進 著
四六判・上製・480項・定価2,640円

本書では剣道の持つ文化としての多様な面を、時代を追いつながら、わかりやすく紹介する。剣道を愛好する方には剣道を改めて見直すきっかけとして、剣道をあまりご存知ない方には剣道という日本文化の成り立ちを知るガイドとして、ぜひ一読を。



剣道 その歴史と技法 埼玉大学名誉教授 大保木輝雄 著
四六判・上製・516項・定価2,640円

本書は戦国末期から江戸時代初期を起点に、今日に至るまでの剣道の歴史の経緯を示した。戦国期以前の剣術の有り様を認識した上で改めて各時代の流れに沿った剣道史を考えてみたいという筆者の思いを実現すべく、連載終了後5年のときを経てついに単行本化。



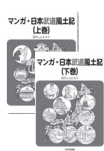
合気道 その歴史と技法 合気道道主 植芝守央 著
四六判・上製・362項・定価2,640円

世界140の国と地域、国内2,400の道場・団体で愛好される合気道。開祖・植芝盛平翁の生涯、植芝吉祥丸二代道主による普及・振興、さらなる発展に繋げた現道主による取り組み。その歴史の中で培われ伝え続けてこられた合気道の理念、それを体現する稽古法、基本的な技法の解説……合気道の全てを網羅した決定版。



空手道 その歴史と技法 小山正展・和田光二・嘉手苅徹 著
四六判・上製・548項・定価2,640円

空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、今や世界のKARATEとなった。その歴史と技法を、那覇糸剛柔流の小山正展氏、首里糸松澤館の和田光二氏、沖縄空手研究の第一人者である嘉手苅徹氏の共同執筆で重層的に紐解く。嘉手苅氏が発見した剛柔流の開祖・宮城長順の最新の事実、小山・和の両世界チャンピオンのエピソードなども満載。空手の真髄に迫る白眉の一冊。



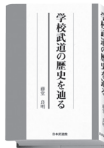
マンガ・日本武道風土記 漫画家・別府大学客員教授 田代しんたろう 著
B5判・248項・定価1,100円

全国の「武道ゆかりの地」を実際に訪ねて、ペンとスケッチブックを片手に徹底取材。地元関係者や施設の学芸員とのやりとり、その土地の成り立ちをわかりやすくマンガで紹介。多数の資料をもとに丹念に描いた当時の風景も魅力の一つ。マンガの世界で日本各地をめぐるみては。



死ぬまで弓道 弓道教士七段 小牧佳世 著
四六判・上製・342頁・定価2,640円

競技中に急性大動脈解離に倒れた筆者は奇跡的な生還を果たす。その8か月後に弓道を再開し、わずか2年後に皇后盃で十射皆中、優勝を果たした。本書では激動の自伝を記し、弓のあり方や「早気」など弓道家の誰もが陥る課題などを模索する。死の淵を覗き、現在も全身全霊で弓を引き続ける筆者だからこそ記せた弓道伝記かつエッセイ



学校武道の歴史を辿る 筑波大学名誉教授 藤堂良明 著
四六判・上製・354項・定価2,640円

明治維新を迎え、武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度の中に組み込まれ、発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え、「格技」として復活。平成24年度には「中学校武道必修化」が実現した。学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。

ご注文・お問い合わせ

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>



2023年度全日本学生柔道優勝大会 国士舘大学が16年ぶりの優勝



男子団体戦・優勝＝国士舘大学

全日本学生柔道優勝大会（男子72回・女子32回）が6月24・25日に日本武道館で開催され、男女とも全国9ブロックから集まったチームが大学日本一を目指して鎧を削った。

男子は、国士舘大学が決勝で東海大学を3―0で下して16年ぶり、7回目の優勝に輝いた。女子5人制は、環太平洋大学が国士舘大学を下し、3度目の優勝。女子3人制は、東海大学九州が広島大学に勝利して、初優勝を果たした。

男子団体戦（62チーム出場）

昨年6連覇を果たした東海大は、決勝までの試合で2回戦は6―0、3回戦は7―0、4回戦は3―0、準決勝は3―1と、わずか1敗で勝ち進み、他大学を寄せ付けず、16年連続で決勝進出を決めた。

反対側のブロックでは国士舘大が2回戦は5―0、3回戦は3―1、4回戦は5―0、準決勝では名門の天理大を4―0で下した。国士舘大も準決勝までわずか1敗で順当に勝ち上がり、昨年と同様、東海大との決勝の舞台に臨んだ。

◇決勝

国士舘大学 3―0 東海大学
先鋒 竹市大祐 引分 天野開斗
次鋒 小田桐美生○合技 森田和志
五将 岡田 陸 引分 新井道大
中堅 高橋 翼 引分 石本慎太郎
三将 金澤聡瑠 引分 工藤海人
副将 齊藤 立○指導3 中村雄太
大将 藤永龍太郎○内股 鈴木直登

先鋒戦は引分。続く次鋒戦は国士舘大・小田桐と東海大・森田の対戦。小田桐の身長が168 cmに対して、森田は191 cmと体格差がある。開始28秒、小田桐が背負投を仕掛けたところを森田が裏投で返そうとするも、小田桐がその裏投を小内刈で返して技有りを奪取。そして開始1分9秒、小田桐が小内巻込で技有りを奪い、合技一本で勝利。体格差を物ともせず、小田桐が大きな1勝を掴みとった。

続く五将・中堅・三将戦は引き分けて、迎えた副将戦。国士舘大は勝利すると優勝が決まる。副将戦は国士舘大・齊藤と東海大・中村の一戦。開始27秒、引手を持つのを嫌った中村に指導1。その後1分26秒、



男子決勝・次鋒戦＝国士舘大・小田桐（手前）が小内刈で技有を奪う



優勝し、感極まる国士舘大学の選手たち



男子決勝・大将戦＝
国士舘大・藤永（上）が内股の一本で大会を締め括る

両者にワンハンドで指導1。中村は後がなくなる。中村は積極的に技を仕掛けるが、斉藤を崩すことができない。その後も決め手に欠き、攻めあぐねていると残り時間53秒、中村の攻めが相手を投げる意思のない攻撃とみなされ指導3で反則負け。この瞬間、国士舘大の優勝が決定した。

大将戦は国士舘大・藤永と東海大・鈴木の一戦。開始2分39秒、藤永が内股で一本を奪い勝利。鮮やかな投技で大会を締め括った。

300で国士舘大が勝利。昨年の雪辱を果たし、16年ぶり7度目の優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ国士舘大・吉永慎也監督



「あまり（優勝した）実感がありません。東海大学をはじめ、色々な強豪大学にずっとやられ続けてきて、こ

の大会で優勝する難しさをコーチ時代から痛感してきました。ただこうして指導者、選手、そしてさまざまな人に支えられ、この優勝、日本一を達成できて本当に嬉しく思っています。そして今回の優勝は、国士舘大学柔道部OBの悲願でもあったので、本当に優勝できてよかったです。ありがとうございました」

◎優勝Ⅱ国士舘大・斉藤立選手



「（個人として）昨年の全日本選手権で優勝した後に、この大会で負けて、本当に地獄のような日々を過ごしました。この試合で優勝できなければ自分は一生呪われているような、何か引つかかるような気持ちはずっと残っていたと思うので、本当に本当に嬉しいです。ありがとうございました」

■女子5人制(40チーム出場)

環太平洋大は2回戦は4-0、3回戦は4-0、4回戦は2-1と4回戦まで順当に勝ち上がっていく。準決勝では前回大会で3連覇を果たした東海大と対戦。3-1で環太平洋大が勝利し、決勝に進出した。

国士館大は2回戦は5-0、3回戦は4-1、4回戦は2-0と順調に勝ち進み、準決勝で仙台大と対戦した。勝利者数が1-1で並ぶも内容差で勝った国士館大が苦しみながらも勝利し、決勝の舞台に進んだ。

◇決勝

環太平洋大 2-1 国士館大
 先鋒 白石 響 引分 五十嵐日菜
 次鋒 荒川清楓○指導 3 中間瑞紀
 中堅 鈴木胡桃 引分 山口葵良梨
 副将 石岡来望○背負投 渡邊菜月
 大将 高山紗楓 反則負○稲葉千皓

まず先鋒戦は引分。次鋒戦は環太平洋大・荒川と国士館大・中間が対戦した。開始33秒、中間がピストルグリップで1つ目の指導を受ける。1分8秒、何の攻撃動作もとらなかつたため両者に指導1。その後、荒

川が中間を抑え込むが、ポイントにはならない。お互い決め手に欠き試合開始から2分46秒、両者にワンハンドに対して指導が入り、中間が指導3で反則負け。荒川が勝利を掴みとった。中堅戦は引分。続く副将戦、ここで勝利すると優勝が決まる環太平洋大。

副将戦は準決勝まで全て一本勝をしている環太平洋大・石岡と国士館大・渡邊の一戦。開始早々、石岡が渡邊を崩し、寝技で攻める。渡邊を4回転させ一時抑え込むもポイントにはならず。その後も攻め続ける石岡と防戦一方の渡邊。開始2分40秒、石岡が背負投を決めて勝利。この瞬間、環太平洋大の優勝が決まった。

大将戦は国士館大・稲葉が亀になつている状態の時に環太平洋大・高山が膝打ちをして反則負け。最終的に2-1で環太平洋大が国士館大を下し、10年ぶり3度目の優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ環太平洋大・矢野智彦監督「選手たち学生たちがチームのために準備をしてくれたので、安心



女子5人制決勝・副将戦＝環太平洋大・石岡(上)が寝技で攻める

しています。気を緩めることなく、しっかりとやっていきたいです」

◎優勝Ⅱ環太平洋大・石岡来望選手「自分が去年(勝ち本数を)取られてチームが負けて悔しい思いをしたので、今年は絶対にポイントゲッターになるという気持ちでやってきたので勝ててよかったです。応援が力になりました。ありがとうございました」



女子5人制・優勝＝環太平洋大学



女子5人制決勝・次鋒戦＝環太平洋大・荒川(左)と国士館大・中間の組手争い

■女子3人制 (21チーム出場)

準決勝で、東海大九州は前年優勝の福岡工業大を下して決勝に進出。決勝は東海大九州と広島大学の初優勝をかけた対決となった。

◇決勝

東海大九州 2-1 広島大

先鋒 増田美羽 横四方固 ○安枝風香
中堅 入江桃子 ○合 技 今岡そら
大将 鎌田晶妃 ○合 技 藤原京加

先鋒戦は広島大・安枝が横四方固で一本勝。中堅戦は東海大九州・入江が大外刈と内股の合技一本で勝



女子3人制決勝・中堅戦＝東海大九州・入江（右）が果敢に攻める



女子3人制決勝・大将戦＝東海大九州・鎌田（左）と広島大・藤原の組手争い

利。大将戦は、東海大九州・鎌田が内股と横四方固の合技一本で勝利。東海大九州が2-1で初優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ東海大九州・鍋倉義盛監督
「昨年3人制に初めて挑戦して、3位でした。今年はどこまでいけるか挑戦でしたが、優勝できて嬉しい気持ちでいっぱいです。来年、連覇を果たすために強化を継続していくと、部員が3人しかないのです、新しいメンバーが加入するようにさまざまな活動を通してPRできたらと思っています」



女子3人制・優勝＝東海大学九州



【大会結果】

■男子

- ▽優勝Ⅱ国士館大
- ▽準優勝Ⅱ東海大
- ▽第3位Ⅱ理天大、明治大
- ▽優秀選手Ⅱ藤永龍太郎（国士館大）、小田桐美生（国士館大）、石本慎太郎（東海大）、天野開斗（東海大）、甲木碧（明治大）、平見陸（理天大）、長谷川功斉（筑波大）、笠井雄太（早稲田大）、松本匡平（國學院大）、北條嘉人（日本大）

■女子5人制

- ▽優勝Ⅱ環太平洋大
- ▽準優勝Ⅱ国士館大
- ▽第3位Ⅱ東海大、仙台大
- ▽優秀選手Ⅱ石岡来望（環太平洋大）、山口葵良梨（国士館大）、込山未菜（東海大）、吉田日和（仙台大）、瀬戸亜香音（東京学芸大）、谷朱音（筑波大）、溝口葵（龍谷大）、瀬戸美咲（山梨学院大）

■女子3人制

- ▽優勝Ⅱ東海大学九州
- ▽準優勝Ⅱ広島大
- ▽第3位Ⅱ福岡工業大、同志社大
- ▽優秀選手Ⅱ鎌田晶妃（東海大九州）、安枝風香（広島大）、羽田野真尋（福岡工業大）、名和田千紘（同志社大）、中束玲那（創価大）、畑田優菜（姫路獨協大）、宮本迪佳（東日本国際大）、和田あおい（九州共立大）

木村恵都（鹿屋）が悲願の初優勝

第71回全日本学生剣道選手権大会（主催Ⅱ全日本学生剣道連盟、毎日新聞社）が7月2日、日本武道館で開催され、各ブロックを勝ち上がった176名が、学生剣道日本一を目指し、熱戦を繰り広げた。試合は木村恵都（鹿屋4年）が鈴木龍哉（法政3年）との決勝を制し、初優勝に輝いた。



男子決勝＝一本を狙う木村（左）

試合はトーナメント方式で行われ、試合時間は5分、3本勝負。時間内に勝敗が決しない場合、3分区切りの延長戦を行った。

▽準決勝

前々回準優勝の木村がいち早くベスト4に進出。その後、矢野将利（法政3年）、鈴木龍哉、山本清吾（日体4年）の3名が準決勝に進出した。

木村 メー 矢野

試合中盤、鏑（つばぜ）迫り合いから離れる瞬間を木村が引き面で一本先取。その後、木村は鏑迫り合いの反則を付与されるも、アドバンテージを守り抜き、2年ぶりの決勝進出を決めた。

鈴木 メー コ 山本

開始直後、山本が出ばな小手で一本を先取。山本はさらに一本を狙い突きから面に飛ぶ。しかし、これを待ち構えていた鈴木が、相面で仕留め五分に持ち込む。終盤、攻め合い



男子準決勝＝鈴木（右）対山本



男子準決勝＝木村（左）対矢野

の中から鈴木が飛び込み面を放ち、一本。逆転の二本勝ちで決勝に進んだ。

第71回全日本学生剣道選手権大会



男子決勝＝木村（右）対鈴木

▽決勝

木村 ○ー 鈴木（棄権）

鈴木は飛び込み面や出ばな技を虎視眈々と狙う。対する木村は多彩に技を繰り出し応戦する。終盤、飛び

込み面を放った鈴木が足をつり、場外へ倒れ込む。試合を一時中断し、鈴木は回復を試みるも、ドクターストップにより棄権。木村の優勝と、最後まで戦おうとする鈴木の闘志に、観衆は心から拍手を送った。

【男子選手権結果】

▽優勝＝木村 恵都

▽敢闘賞＝米田好太郎

▽準優勝＝鈴木 龍哉

（筑波4年・九州学院高）

▽第3位＝山本 清吾

（中央4年・福大大濠高）

（日本体育4年・奈良大付高）

（慶應義塾4年・安積高）

矢野 将利

（東京農業4年・長崎西陵高）

（法政3年・福大大濠高）

（東京農業4年・長崎西陵高）

優勝者インタビュー

2年前の決勝での雪辱を果たし、頂点に立った木村選手は、やや複雑な表情だった。

「2年前に決勝で味わった悔しい思いは決勝戦でしか晴らせないと思って臨みました。決勝が思わぬ形で終わってしまったので、優勝の実感はまだまだありません」

今回の優勝を踏まえた今後の目標を語った。

「全日本選手権、世界大会出場を目指して頑張ります。また、11月の全日本優勝大会（団体戦）も優勝し、鹿屋の強さを見せたいです」

川合芳奈（筑波）が全日本を制す

第57回全日本女子学生剣道選手権大会（主催Ⅱ全日本学生剣道連盟、毎日新聞社）が7月1日、日本武道館で開催され、各ブロックを勝ち上がった96名が、熱戦を繰り広げた。試合は川合芳奈（筑波3年）が決勝で猪原悠月（中央2年）を下し、初優勝に輝いた。

▽準決勝

大会史上初の3連覇を狙う水川晴奈（法政3年）が2回戦で姿を消す。その他、有力な4年生選手が次々と敗退する中、準決勝に勝ち進んだのは川合芳奈、北澤穂乃（筑波1年）、猪原悠月（中央2年）、笠日向子（筑波3年）の4名であった。

川合 メー 北澤

筑波の同門対決。試合中盤、攻め合いの中で後ろに下がった北澤へ、川合が鋭く面を飛び込み、一本。川合がリードを守り切り、決勝へ進出した。

猪原 コー 笠

前回、前々回と3位の成績を残す笠が、初の準決勝突破を狙う。序盤、笠の手元が上がったところに、猪原の狙い澄ました小手が決まる。笠は巻き返しを図るも、積極的に技を出す猪原を攻略しきれず、時間切れ。猪原が決勝への切符を手にした。



女子決勝＝川合（右）が技を仕掛ける



女子準決勝＝猪原（右）対笠



女子準決勝＝川合（左）対北澤





▽決勝

川合 コー 猪原

初優勝を狙う両者の試合は、序盤から慎重な攻め合いが続き、互いに機会を窺う場面が続く。5分間の本

戦では有効打が出ないまま、延長戦へ。決着がついたのは試合開始から9分、猪原が飛び込み面を放つその瞬間を、川合が出ばな小手で捉え、一本。関東を制覇した川合が堂々の全日本優勝を果たした。

【女子選手権結果】

▽優勝＝川合 芳奈

（筑波3年・東海大静岡翔洋）

▽準優勝＝猪原 悠月

（中央2年・筑紫台高）

▽第3位＝北澤 穂乃

（筑波1年・中村学園女子）

笠 日向子

（筑波3年・中村学園女子）

▽敢闘賞＝佐藤 悠月

（山形1年・秋田北高）

中村 日南

（日本体育4年・三養基高）

奥谷 菜子

（筑波4年・中村学園女子）

湯川 愛梨

（大阪体育4年・済美高）

優勝者インタビュー

優勝杯を手にした川合選手が、率直な感想を語った。

「優勝できてとても嬉しいです。関東大会での調子を全日本でも出せるようにと、今日まで稽古を積んできました。今日は1回戦目から得意技が決まって、自分のペースで試合ができていたと思います」

関東、全日本と個人戦を制覇した川合選手が、今後の目標を語った。

「大学としては秋の団体戦での日本一、個人としては、全日本選手権や世界大会に出場できるよう頑張ります」

男女ともに、 東軍が勝利

第70回全日本学生剣道東西対抗試合 第17回全日本女子学生剣道東西対抗試合



西軍大将・木村（右） 対東軍6将・菅藤。
木村の面返し胸が決まる



東軍5将・藤島（右） 対木村

第70回全日本学生剣道東西対抗試合、第17回全日本女子学生剣道東西対抗試合（主催Ⅱ全日本学生剣道連盟、毎日新聞社）が、7月1日・2日、日本武道館で開催され、男女ともに東軍が勝利した。

男子は東西各20名、女子は各10名が出場。試合時間は3分3本勝負の勝ち抜き戦で行われ、勝敗が決しない場合は引き分けとし、大将の試合のみ3分区切りの延長戦が行われた。

▽男子

西軍先鋒・向井崇真（関西学院）が先鋒戦を制するも、東軍次鋒・小林柊弥（日本）が向井を退ける。その後、東軍15将・江澤佑真（駒澤）が3人を抜き、東軍がリード。さらに、東軍13将・橋本和馬（東京農業）が怒涛の5人抜きでリードを広げる。東軍11将・相馬武蔵（明治）が3人を抜き、西軍3将・中山豊樹（鹿

◇全日本学生剣道東西対抗試合

名前上部の※は優秀選手賞

東軍	監督	和栗 孝充（明治卒）
	助監督	小林 日出至郎（筑波卒）
	助監督	牛木 さつ子（国士館卒）
西軍	監督	八竹 利明（大阪歯科卒）
	助監督	多治見 修（中部卒）
	助監督	熨斗 由利（園田学園女子卒）

東軍（5人残り）					西軍				
氏名	学年	学校名	各試合結果		氏名	学年	学校名		
先鋒	中崎 幹太	2	北海道大	コメ	先鋒	向井 崇真	2	関西学院大	
次鋒	小林 柊弥	4	日本大	コメ	次鋒	藤田 仁平	2	中部学院大	
18将	石田 恭一郎	2	仙台大	ココ	18将	長 蓮太郎	3	近畿大	
17将	世良 晃一朗	4	神奈川大	メ	17将	田外 祥規	3	成城大	
16将	小浦 一郎	3	福井工業大	コメ	16将	市村 宣成	3	松山大	
15将	※江澤 佑真	4	駒澤大	ド	15将	山本 海斗	4	鹿屋体育大	
					14将	藤井 魁大	4	関西大	
					13将	西田 裕貴	4	宮崎産経大	
					12将	※葛田 瑞希	4	大阪教育大	
14将	河原 佑太	4	北海学園大	コメ					
13将	※橋本 和馬	4	東京農業大	メド					
					11将	金丸 大地	4	別府大	
					中堅	宮本周次郎	4	関西大	
					9将	加藤 輝也	4	周南公立大	
					8将	池田進之介	4	同志社大	
12将	福田 直樹	4	東北学院大	メ	7将	大竹野 学	4	朝日大	

大將戦。西軍大將・大嶋（右）が攻める



東軍大將・奥谷（左） 対西軍副将・堀



屋）が引き分けて退ける。西軍副将・加藤圭磨（近畿）は2人を抜くも、東軍8将・小檜山琢仁（慶應）に敗れる。8人を残す東軍に、西軍大將・木村恵都（鹿屋）は3人を抜く活躍を見せるが、東軍5将・藤島剣（日体）が延長戦にて小手を決め、東軍が5人を残し勝利した。

▽女子

選手権大会で水川晴奈（法政大）

を下した西軍8将・高木智紗（環太平洋）が、東軍の次鋒、8将の2人を抜く。その後、西軍が1人リードし、東軍大將・奥谷茉莉子（筑波）と西軍副将・堀由美恵（大阪体育）が対決。延長戦で奥谷が小手を決め、大將戦へ。西軍大將・大嶋友莉亜（鹿屋）が序盤から連続で技を繰り出し、攻勢に出る。試合終了間際、鏝迫り合いから奥谷が引き面を打つと、見事に一本。東軍が勝利した。

【東西対抗試合結果】

◇男子Ⅱ東軍勝利（5人残し）

※通算成績 東軍50勝17敗1引分

◇女子Ⅱ東軍勝利（大將戦）

※通算成績 東軍7勝8敗

5将	6将	7将	8将	9将	中堅			11将	
※藤島 剣	菅藤 尚哉	曾我部龍我	小檜山琢仁	青木 尊	阿比留宏貴			※相馬 武蔵	
4	4	4	4	4	4			4	
日本体育大	福井工業大	国士舘大	慶應大	北大函館校	法政大			明治大	
コ			ココ		ド			ド	
	メド	コ			ココ				メ
			大將		副将	3将	4将	5将	6将
			※木村 恵都		※加藤 圭磨	中山 豊樹	倉石 隼輔	葛和 大敬	佐藤 瑠綺
			4		4	4	4	4	4
			鹿屋体育大		近畿大	鹿屋体育大	中京大	東亜大	大阪体育大

◇全日本女子学生剣道東西対抗試合（監督・助監督は男子と同じ）

名前上部の※は優秀選手賞

東軍（大將戦）												
	大將	副將	3將	4將	中堅	6將	7將	8將	次鋒	先鋒	氏名	
	※奥谷 茉莉子	柿元 冴月	牛島いつか	鈴木 小桜	中村 日南	※江面 香帆	吉田梨花子	蔭田 吏重	小野 萌子	※川合 芳奈	学年	学校名
	4	4	4	3	4	3	4	2	1	3		
	筑波大	法政大	福井工業大	札幌大	日本体育大	東北学院大	明治大	札幌大	山形大	筑波大		
メ	コ					メ	メコ			コ	各試合結果	
		メ	メ		メ				メ			
				ド			コ	コ	メ			
	大將	副將	3將	4將	中堅	6將	7將		8將	次鋒	先鋒	
	大嶋友莉亜	堀 由美恵	市川結里加	※井波 愛結	大西 里奈	片山 真楓	遠藤 華		※高木 智紗	宮本 もえ	大嶋 妃奈	氏名
	4	4	4	3	4	3	4		1	3	2	学年
	鹿屋体育大	大阪体育大	中京大	環太平洋大	関西学院大	近畿大	星城大		環太平洋大	園田学園女子大	福岡大	学校名

第15回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会

埼玉県が優勝

10年ぶり・2回目



決勝・中堅戦＝志藤（左）が面を決めて、埼玉が優勝を果たす

第15回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会（主催Ⅱ全日本剣道連盟・読売新聞社）が7月10日、日本武道館で開催された。大会は年齢別に1チーム7名で編成された団体戦で行われ、47都道府県の選手たちが覇を争った。

決勝は、埼玉県と大阪府の対決となり、埼玉県が4―2で勝利。10年ぶり2度目の優勝を果たした。

■準決勝①

埼玉県	3―0	東京都
先鋒 森 柚乃	メー	伊藤 董
次鋒 小川真英	×	北井沙樹
5将 小川梨々香	メー	内田涼子
中堅 志藤綾子	×	近藤美洸
3将 渡會愛梨	×	本川愛梨
副将 村山千夏	メー	矢野比路代
大将 市村麻美子	メ×コ	鈴木亜紀

昨年優勝の京都を下した埼玉と東京の対戦。先鋒戦で埼玉・森は、出ばな面を決めて一本勝を収めた。次鋒戦は引分。5将戦は埼玉・小川（梨）が引き面を決めて勝利。中堅、3将戦は引分に終わる。副将戦は埼玉・村山が相手の隙をつき、面を2本決めて勝利した。この時点で埼玉の勝利が決定。大将戦は引分となり、3―0で埼玉が決勝へ進んだ。



準決勝・先鋒戦Ⅱ埼玉・森（左）が面を決める



準決勝・代表者戦＝大阪・川内（右）の面で、大阪が勝利



決勝・中堅戦＝志藤（左）が小手を決める



優勝＝埼玉県

■準決勝②

大阪府			0代―0	群馬県
先鋒	平瀬瑠愛	×	設楽和乃花	
次鋒	寺本すずな	×	眞下ゆず	
5将	北井真結	×	福田安優子	
中堅	有本奈未	×	堀込 望	
3将	辻 瑠子	×	中根まなみ	
副将	近藤恵子	×	新井直美	
大将	川内 綾	コ×コ	根岸敦子	
代表	川内 綾	メー	根岸敦子	

先鋒から副将戦は大阪・群馬ともに決め手に欠けて引分に終わる。大将戦は大阪・川内が小手で一本を先取すると、群馬・根岸も小手を決め

て引分となり、勝負は代表者戦に委ねられた。代表者戦は大將戦と同じ大阪・川内と群馬・根岸の対戦。川内が会心の面を決めて一本勝利、大阪を決勝へと導いた。

■決勝

埼玉県	4―2	大阪府	
先鋒	森 柚乃	メー	平瀬瑠愛
次鋒	小川真英	メコーメ	寺本すずな
5将	小川梨々香	コー	北井真結
中堅	志藤綾子	コメー	有本奈未
3将	渡會愛梨	×	辻 瑠子
副将	村山千夏	ード	近藤恵子
大将	市村麻美子	ーメメ	川内 綾

先鋒戦は、埼玉・森が大阪・平瀬に鮮やかな出ばな面を決めて一本勝利した。次鋒戦は、埼玉・小川（真）と大阪・寺本による中央大3年の対決。初めに寺本が面を決めると、小川が気迫のこもった面と小手を続けて決めて激戦を制した。続く5将戦も、埼玉・小川（梨）が小手を決めて、埼玉が3連勝利、優勝に大手をかけた。

中堅戦は、埼玉・志藤と大阪・有本の対戦。中盤に志藤は、上段構えの有本の隙をついて小手を決めた。続けて有本が小手を仕掛けたところ、志藤が面を決めて試合は終了。埼玉の優勝が決まった。

玉の優勝が決まった。

3将戦は引分。副将戦、大將戦は大阪の近藤と川内が勝利した。

埼玉県が4―2で10年ぶり2度目の優勝を果たした。

◎優勝Ⅱ埼玉県・金子優香理監督

「勝つ力のあるいいチームでした。予選から徐々に皆の調子が良くなりいい流れができました。メンバーでは若い子たちに勢いがありました。

普段は選手権や国体などで競い合うライバルという面もありますが、切磋琢磨するいい仲間だと思います。稽古会は大会の1週間前に初めて全員が揃いました。けれども色々な場所稽古をしているメンバーですので、不安はありませんでした」

【大会結果】

◎優勝Ⅱ埼玉県

○準優勝Ⅱ大阪府

▽第3位Ⅱ東京都・群馬県

◇優秀選手

菅谷千恵子（和歌山県）

興梠 舞（宮崎県）

村田 結依（茨城県）

下川 美佳（鹿児島県）

西岡伽弥乃（愛知県）

渡邊 タイ（熊本県）

団体戦で 男子は法政大学 女子は明治大学 が優勝

第53回全関東学生弓道選手権大会



団体戦・男子の部決勝＝同中競射までもつれた接戦を制したのは法政大学（手前）

第53回全関東学生弓道選手権大会が6月10・11日、日本武道館で33校約600名が参加して開催された。男子団体戦では法政大学が5年ぶり14度目となる優勝、女子団体戦では明治大学が10年ぶり4度目となる優勝を果たした。個人戦では男子の部で佐々木俊（法政大）、女子の部で山崎琴葵（早稲田大）がそれぞれ優勝に輝いた。

大会は6月10日に男子の団体戦と個人戦が行われ、6月11日に女子の団体戦と個人戦が行われた。

団体の部は男子は6人順立で1人4射、女子は3人順立で1人4射により実施。予選・決勝ともに同中の場合は競射により勝敗を決した。

個人戦は男女ともに決勝的中を続けた者が勝ち残る射詰で、4射目より八寸的使用して競った。

■団体戦

▼男子の部

決勝戦に勝ち上がったのは法政大学と明治大学。24射終えた段階で両チーム20中であつたため、同中競射（1人2射計12射）が行われた。明



団体戦・女子の部優勝＝明治大学



団体戦・男子の部優勝＝法政大学



個人戦・女子の部優勝＝山崎琴葵（早稲田大）



個人戦・男子の部優勝＝佐々木俊（法政大・手前）



大会の最後には納射が行われた



団体戦・女子の部決勝戦＝10中で優勝を決めた明治大学

治大学の9中を上回り、法政大が12射全てを的中、5年ぶり14度目の優勝に輝いた。

▼女子の部

決勝戦に勝ち上がったのは明治大学と慶應義塾大学。12射終えて明治大が10中、慶應義塾大が8中となり、明治大が10年ぶり4度目の優勝を果たした。

■個人戦

男子は佐々木俊（法政大）が8寸的の5本目を唯一的中させ、優勝に輝いた。

女子は山崎琴葵（早稲田大）が8寸的の3本目を唯一的中させ、優勝に輝いた。

【大会結果】

■団体戦

▼男子の部

▽優勝＝法政大学

▽準優勝＝明治大学

▽3位＝筑波大学

▼女子の部

▽優勝＝明治大学

▽準優勝＝慶應義塾大学

▽3位＝桜美林大学

■個人戦

▼男子の部

▽優勝＝佐々木俊（法政大学）

▽準優勝＝星山知慶（明治大学）

▽3位＝道下叶夢（国際武道大学）

▼女子の部

▽優勝＝山崎琴葵（早稲田大学）

▽準優勝＝瀬川珠璃（国際武道大学）

▽3位＝野口陽向（大東文化大学）